

文化ホール及び公民館 内部評価結果 (施設所管課による評価)

【評価対象施設】文化ホール・公民館

【指定管理者名】株式会社 アステム

【評価対象年度】令和7年度

【施設所管課名】産業・文化部 生涯学習課

業務内容についての評価

条例・協定書に基づき、適正に管理・運営を行っています。

令和7年度は、芸術文化の向上、生涯学習の振興や市民の自主的な学習、活動のきっかけとなる事業の実施は全50件でした。「津軽三味線&パーカッションライブ」では好評につき増席してもチケットが完売するほどの人気で、来場者の満足度も非常に高い公演でした。また、昭和100年を記念した「ダイトウアーティスト展」では昭和に多くの家庭で飾られていた手芸作品の展示を行うコーナーを設け、懐かしさに笑みがこぼれるシーンも見られました。「あわてんぼうクリスマス☆おたのしみディ」では、ツリーの飾りつけやクラウン講座成果発表など参加型のイベントがとても好評でした。

さらに、「ふらっと、だいとう～大東市にはこれがある！～」や「だいとうイベントスタンプラリー」などでは、大東市に対する理解を深め、郷土愛を育むサーティならではのとも言うべき事業だったと高く評価しています。

公民館では、今や生活に欠くことが出来ない「スマホ」の利用に対し、「スマホでつける楽々デジタル日記帳」や「公共施設予約システム使い方説明会」などを実施し、日々の生活に直接役立つ機会を提供できました。また、「あそべるリトミックコンサート」では子育て世代に対し、乳幼児を育てる保護者が一緒に参加できるイベントを開催し、親子の思い出に残る貴重な機会となりました。これからも様々なニーズを充足させるイベントを実施していただき、サークル数や参加者の増加をお願いします。

今後大東市の文化活動を活発なものにしていただき、ひいては「元気なまち」を作るために沢山の笑顔を創出できるイベントを実施していただきたいと思います。また、サーティホールから大東市全域へと感動や笑顔、思いやりや助け合う心の輪が広がっていくような将来を期待しています。

施設の利用者合計については、令和6年度に比べて文化ホールは大幅減少、公民館では微増となっています。これは大規模改修工事によって約70日もの間、大ホールを休館したことによる影響です。

(【文化ホール】R6:164,184人、R7:142,458人【公民館】R6:32,806人、R7:32,925人)稼働率については、休館した大ホールの利用枠については除外しているものの文化ホール、公民館ともに減少となった。(【文化ホール】R6:49%、R7:47%【公民館】R6:42.4%、R7:42.0%)

施設の管理運営については、今年も老朽化に伴う故障や不具合が頻発しましたが、利用者の安全確保を早急に実施し、その後も機能維持のために適切な対応をしていただいております。また、休館を伴う大規模な工事や、営業をしながらの改修工事などに対し、利用者の安全性や利便性の確保、施工の進捗、周知活動や事業実施に至るまで、きめ細やかでかつ迅速な対応をしていただき

大変感謝しております。今後も引き続き、利用者の安全と快適な利用を維持するために適切な管理運営をお願いします。

利用者満足度について評価

今年度の利用者アンケートでは、文化ホールの「施設全般」について、「満足」と「やや満足」の合計が65%、「不満」と「やや不満」の合計が2%でした。

公民館の利用者アンケートでは、「公民館全般」について「満足」と「やや満足」の合計で66.0%と昨年度より5.6%減少しています。しかし「不満」「やや不満」の割合は依然1%未満の低水準を継続しております。

どちらも高評価が高い水準で維持していますが、不満の声もありますので、改善できるものについては積極的に取り組んでいただき、更なる満足度の充実に努めてください。

寄せられた意見としては、サークル活動における高齢化や会員減少によるものが多くみられます。間接的な支援も含めて、活動が今後継続できるよう工夫や対応をお願いいたします。

収支状況について評価

収入については、昨年度に比べ施設利用料金と駐車場利用料金の減少が大きくなっています。これは大ホールの改修工事による休業が影響しており、市からの補填により減少幅は賄えていると思われます。指定事業参加料も増加しており、全体でも昨年度より増加しております。しかしながら、収支を見てみると、昨年度よりも支出を大きく下回っている結果となっており、それほどに支出額の増加が顕著であると言わざるを得ません。

その支出についてですが、人件費と委託料の増加が特に影響を及ぼしているようです。スタッフの給与や警備業務、保守点検業務といった人件費に係る費目への支出額増加が目立っています。

昨年度と比べて収入は増加しているものの支出における固定経費の上昇により最終的には2,348千円の赤字となっております。社会的要因によるところが大きいと思われますが、収入の拡大、特に事業による増収が課題となっていると思われます。

しかしながら、地域の人を始め、たくさんの人々に高度な音楽体験ができるステージを提供したり、興奮や感動を与え、郷土愛を育む事業を実施したりと充実した運営をしていただいていることについて高く評価しております。

また、これに加えて施設利用料金収入の上昇、事業収入の更なる黒字化に利用率の向上といった課題について、今後の運営に期待しております。

総合評価

令和7年度は大ホールを約70日間もの間休館しなければならないという状況にも関わらず、事業収入を増加させており、住民ニーズを的確に捉えた公演やイベントが実施できたと思っております。また、センターの営業を継続しながらの改修工事の実施については、非常に困難な状況の中でも利用者の安全やサービス水準の確保を維持するために柔軟かつ迅速に対応していただき、大きな問題もなく施工できたことに本当に感謝しております。

今後もニーズに沿った魅力的事業実施と公立施設ならではの取り組みの両輪で、サティホールとしてのブランド力を向上させ、もっと賑わいのある施設運営をお願いします。

また、HPの改善やSNSの活用等にも更に力を入れていただき、普段あまり利用されない人にも広報の幅を広げて頂くよう期待しています。

総合文化センターは、文化ホールと公民館の複合施設であり、その役割は質の高い舞台芸術を提供することと、文化・芸術活動を育むことにあります。そこで、より多くの方に利用していただけるよう魅力的な事業を多く提供し、幅広い世代の方に利用されるような場所づくり、体制づくりを行い、支援を継続してください。